

○平成 26 年 12 月 21 日 19:00～

○会場：市民総合センター市民ホール

《質疑応答》

◎私は、今回初めて参加させていただきました。市民の意見交換会が開かれていたということを知り、広報でも気づきませんでした。見落とししていただけかもしれませんが、二百数十人が参加しただけというのは、まだまだ市民と、このことについて議論されていないというのが私の感想です。統廃合の問題について、教育委員会サイドの考えでこの計画がスタートしたのかというと、そうでないように思います。つまり縮小の土地を使うために統廃合を行うというようにしか感じられません。今までの意見交換会の 8 回の資料に目を通しましたが、多くの方が現在のままで何故いけないのかについて質問されています。先ほど教育担当の方から説明がありましたが、どう聞いてもそれに対する答えにはなっていないと感じます。具体的に申しますと、配られた資料の 4 ページに、学校数を減らさなくても良いのでないか、小規模校を解消する必要があるのかという質問があります。それに対して、今までの検討会、意見交換会の中では全国で 12 学級未満の中学校、小学校を運営しているところが 41.3%もあるという意見が出ています。この数字はその資料を見て知ったのですが、全国でそれだけの数があるだけでやっています。その中には、田原小も含まれており、田原小の教育がそのことによって落ちているのかとの質問に対しての回答が何もされていません。先にボタンの掛け違いで先に統廃合するというのがあって、それに合わせてこのような計画が作られ、そして実施されたアンケートが資料として、6 ページから 8 ページに出てきていますが、1 学級が良いですか、1 学年 2 学級で良いですかと聞かれたら、やはり複数学級の方が望ましいのは保護者であろうと、教員であろうと、書くと思います。その部分を取って、みんなが統廃合してでも 12 学級以下ではなくて、学級が 1 学年複数あるような学校規模にしたほうが良いと考えているのだというのは、我田引水だと私は思います。教育の現場の責任をもった教員が、子ども達の状況、どれが教育にふさわしいか、と責任をもって四條畷で働いている先生方がおられます。その先生方全員に対してこの再編計画のトータルについてのアンケートなり意見交換会を行ったのですか。行ったのならその資料を明らかにしていただきたいです。ILO/ユネスコの教員の地位に関する勧告が世界的に認められ、日本政府も認めている勧告があります。それには教員がそのような大事な教育施策について、教員や教員団体が自らの意見を教育行政と交わすということについての必要性を問うています。今までの意見交換会の中では、学校長を通して意見を聞いていますという一言があっただけで、学校長が現場の教員が学校統廃合計画にどのような教育的メリット・デメリットがあるのか、統廃合した方がより縮小の教育については良いと思われているのかどうか、その具体的な意見が学校長を通して聞いているのであれば、どのような方法で聞き、どのような意見があったかということ、今この場で明らかにしていた

だきたい。もし、されていないのであれば、学校長を通してではなくて、やはり市として教職員と意見交換をする場を是非作っていただきたいと思います。拙速に 8 回市民とこのような意見交換を二百何十人と行い、案を作っています。しかし、先ほどの説明では、案ではなくて、さもこれが確定のようなニュアンスで言われたのに驚いています。今までの説明会では、あくまでも案であって、年末から 1 月にかけて学識経験者と話しますというのはありました。しかし、その前に、現場の教職員、保護者、全学校を周ってするぐらいのことをやっていただけないでしょうか。それが強い私の要望です。

⇒ご意見ありがとうございます。

周知啓発の部分についてです。今回、お知りになられたのがつい最近というようなご指摘でございました。確かに、広報とホームページ、地区回覧等でまちづくり意見交換会を、9 月と 10 月に開催し、ご案内をさせていただきました。まず、意見交換会の標題について、多数からご意見を頂戴しました。まちづくり長期計画（教育施設を含む）という内容では、今回のような学校統廃合の内容が含まれていることが、分からなかったという意見を、当時いただきましたので、速やかに市の P T A 協議会という団体を通じまして、各小中学校等において、個別にお手紙を持って帰っていただくなどの対策を講じてまいりました。その中では、今回の 9 月 10 月の意見交換会は学校統廃合に関する話があるというようなことを、再度周知をさせていただきました。今回はその反省もふまえて、経過報告会のタイトルについては、学校統廃合を含むというようなことも、標題の中に盛り込んでご案内をさせていただいたということで理解をいただければと思っております。

⇒後の方でご意見いただきました小規模校等について、お話をさせていただきます。まず、全国で小規模校は 41% というようなデータが出ておりますが、その中には、過疎地あるいは離島なども含んだ全国の値でして、大阪府内では政令市も含めて 30% 弱ぐらいが小規模校にあたるというように聞いております。その中でも、子ども達がたくさんの多様な考えに触れるということ、単学級で 6 年間行った時の人間関係面の苦慮という部分について、それを積極的に解消すべきであるという考えにまず至っております。その中で法によると、地域の実情や、その他の特別な事情がある時は、その標準という部分については適用しないということが書いてあります。例えば、田原小学校・田原中学校が小規模校になったからといって、西部地域のどこかの学校と、すぐ統合を考えるかとなりますと、通学の問題等を考えても、すぐには、という訳にはいきませんので、その辺は地域の実情等を考えながら、統廃合を計画していくべきだと考えております。それから、教職員とどのように話をしたかという件ですが、各学校を周らせていただきまして、学校管理職を通じて聞き取らせていただいております。その中では、例えば、児童数、生徒数が減ってくることによる教育活動のメリット・デメリット、その辺を十分に聞かせて

いただいています。その中で聞かせていただいたご意見で、例えば、中学校であればクラブ活動の運営が厳しくなっていく。あるいは、学校行事の盛り上がり、活性化っていうものがやはりしんどくなってきています。それから人間関係、子どもたちの人間関係、保護者の方なども含めた人間関係の厳しさというものが小規模校ではデメリットであるということをお聞かせいただきました。併せて、教職員組合等関係団体等とも一回だけではありますが、お話をさせていただいております。

◎今日の説明会の標題ですけれども、四條畷市まちづくり長期計画という形なので、長期計画の中で、教育の問題を考えていくというような基本的スタンスでなければならないと思います。そうすると、今、我々が直面している大きな問題はなにか、国としても少子化問題をどうしてくのか。また、地域としては社会減ということも起こっていく、それをどうしていくのか。ということが大きいと思います。それに対して、将来推計すれば人口は減っていくだろうと、減って行けばそれに対応する統一化を図るために設備を縮小しなければならない、そういう考え方を繋ぎますと、まずはそのために不便になって、更に人口が縮小する。当然社会減が起こるというような形にもなってくる。ということで、悪循環を起しかねない。やはり、そうすると、自然増をどういう形でやるか。子どもを育てやすい社会、そういう街をどのようにつくっていくのか。ということが、まず根本的に考えなければならないことであろうと思います。併せて現在、北摂地域では、社会増が起こっている。若者が向こうに住む、そうすると、四條畷はどうかというと、若い子育て世代が社会的には減という形になっている。そこをどういう形で四條畷地域が住みやすい地域で若者たちがこの街を選ぶという形にしていくのか。ということが、まず考えなければならないことです。もし、それを考えないと、逆のケースとして、将来減っていくであろうという形で考えるならば、この計画はもう一つ片手落ちな面があります。どういうことかということ、人口減が起こると、街から人がいなくなります。人がいなくなるということは、住宅もだんだん空き家が増えてくる。空き家が増えてくると、防災問題が色々なところで起こってくる。それに対するどういう対策をするのかという頭の悩ましい問題が多々起こってくる。そうすると、長期計画ということを考える場合に、どういう形で市民全体が、この街を住みやすい、若者が来てもらえるような街にするのか、ということ、まず真剣に検討するべきです。そういう中で、教育等の施設整備についても、どれだけ努力してもここまでは難しいから、そういう中で考えていくということではないか。もし、将来人口がこの計画通りに減ることになれば、教育施設の数も減らせば、出費も減るだろうが、逆に収入も減るといえる話になるので、それで財政が楽になるということも、言い難いのではないかと。根本的なところで、長期計画ということを考えるのであれば、もう少し広い視野で行政だけが考えるのではなく、市民全体が参加をして、どういう形の街にしていくのか、という視点で考えた上で決めていかないと結局、行政側が一人で踊っているというか、こうした方が効率的なの

だというだけで、進んでしまうことになりはしないかと危惧しております。この計画を市として決める方向で行くのだというのであれば、市長の考え方もお聞きしたい。行政の中だけの考え方で人口推計すればこうなる、そうすると、予算上、財政的に、こうせざるを得ないのだ、それをどう市民に説明するのか、ということで、こういう形で出来続ける。そういう論理じゃなくて、四條畷の将来の街のあり方を市長としてどう考えているのか。そのようなことから出発した計画ということで練り直すという姿勢を持って臨んでいただきたいと思います。

⇒教育分野の方での人口減に対応した、今後のまちづくりというような観点からお答えさせてもらいたいと思います。学校の中で、この学校に行っても良かったな、また、この学校に行きたいな、というような、ソフト面とハード面の両軸で、学校の魅力づくりということについても考えていきたいなと考えております。その中には各校の特色を作り、当然ですが、イジメの問題等々そのようなことを無くすような取組み、そういうことをする中で、四條畷市の学校に行きたいなというようなことを今後は目指していきたいなと考えております。そうすることが、人口減を食い止める方法かなとも思っています。また、一旦、学校を卒業して他地域に就職等で行かれても、子育てする時には四條畷市に戻りたいなと思えるような地域になればと考えております。

⇒福祉施策の観点からお答えさせていただきます。先ほど、ご案内がありましたように少子高齢社会ということで、少子化につきましては国の方でも対策を立てております。ただ、人口流出ということも考えておりますので、本市といたしましては、子ども施策につきましては、子ども子育て支援制度が平成27年4月から実施されてまいります。このことにつきまして、子育てしやすい街づくりということで、保育所等の待機児童の解消を目指していく。それと合わせて、地域の子育て施設の充実を図るために、保育所相談機能を充実させ、子育て支援を推進していくという考えでございます。また、子育てという観点から、子どもプロジェクト、子ども医療費の助成について書かれていますが、この計画を前倒しいたしまして平成27年7月から対象年齢を中学3年生まで拡大いたします。それと、障がい施策につきまして、平成28年より懸案となっておりました児童発達支援センターと子育て総合支援センターの複合施設を開設いたしまして、より子育て支援の充実をはかってまいりたいというような状況でございます。

⇒四條畷に住んでいただくために、四條畷が持っている魅力、というのをどんどん発信していくということで、四條畷では自然が豊かで歴史的背景も色々あります。そちらのほうも、どんどん発信していくため、観光大使さんの力を借りるなど、色々な方法で四條畷に住んでみたいと思われるPRに力を入れていきたいと考えておりますそれと、住みやすい街ということで、商工業が発展して、買い物もしやすい、田原地域で一部、

ちょっと買い物がしにくい状況が起きておりますし、商店街の活性化にも力を入れて、今後魅力ある街づくりに努めていきたいと思っております。

⇒現在の施設をこのまま 2050 年まで維持していきますと、途中で対応年数が過ぎるような建物の建替えや維持補修をしていきますと、ランニングコストの方が大体 2050 年までに 100 億円程度かかる計算になります。それから改修等のコストが概ね 600 億円程度。この 1/3 の建替え等に係る経費につきましては、200 億円程度国から交付金や補助金等借用するとして、全体の 700 億円のうち、200 億円引きまして 500 億円ぐらいの経費が今後必要になってくると思われます。この部分につきましては、先ほどの説明にもございました通り平成 27 年、28 年に公共施設等の総合管理計画、これを 28 年度以降この管理計画に基づき、ワークショップ等開催いたしまして、具体案を煮詰めていきたいと考えております。

◎市役所の職員の皆さんには、何回も何回も説明会をしていただいて、本当にご苦労さまやと思っております。しかし、私はやっぱり納得できません。個人の家庭でも、物を作ったり買ったりするときは、まず、どれだけかかるのか、でも予算はこれだけ、じゃあどうするのか、その予算が全く具体的ではありません。これでは分かりません。何百億円、どれぐらい安くなると言われても、私ら素人にはわかりません。PFI 方式っていうのを、ちょっと聞きましたら、色々な大手のゼネコンさんとかと一緒に、銀行さんからお金を借りて、それでやっていく、何十年もかかって借金を返すというやり方ですよね。私は、それはものすごく恐ろしいと思っております。例えば北海道の夕張市はそうでした。どんどんどんどんお金を使って、ある以上に使って、赤字になって、その結果市民が、どんな大変なことになったか報道されていました。私はそれがものすごく怖いんです。私らはそんなに何十年も生きられませんけども、これからの今の子どもたちや若い人が将来四條畷に住んでいて、この市に住んで良かったとそう思える市でなかったら困ると思っております。私はそういう意味で、この計画はものすごく不安があつて、どうしても納得できません。そんなに借金をしていくらかかるか分からないものを、なぜ今進めようとするのですか。この計画がこのまま実行されたら、私は死んでも死にきれません。私も四條畷でお世話になって、長いこと暮らしましたし、良い街やと思っております。でも、このままでいくと、借金のいっぱいある、誰もが行きたくもない、建物だけが新しいけど、人がどんどん減っていくし、税金は上がる。それから、市の職員は非正規ばかりになり、学校の施設の買い替えもできず、予算が無いということになると思っております。そういう計画を、なぜ進めるのですか。市長は何で来てないのですか。市役所の職員の方は、市長がおっしゃることをしないとイケないと思っております。こんなに寒い時に、夜、説明会までして、一生懸命やってくれていると思っております。市長は、辞めるときに退職金はみんな置いて、将来のためって置いてくれるのですか。そのような恐ろしいことを、進めていくの

に責任者も分からず、いくらかかるかも分からない、このような計画は誰も納得できません。市長は市民のことをなめているのと違いますか。怒っている市民がいっぱいいます。しかも自分は出てきてなくて、職員さんばかりにやらせて、一体何を考えているのですか。私はこの問題が起きてから、「どうなるんやろう、どうなるんやろう」と心配で心配でしょうがないです。それからお金のことですが、来年の3月に出るらしいですが、もうその時は4月から着工する訳でしょう。そんなプランはおかしいと思いませんか。それに、小学校にいつの説明もあまりしてないでしょう。何か要望で行ったところもあるみたいですが、四條畷小学校とかは行ってないでしょう。保護者も知らないし、教職員も知らないです。どこの街でもそうであると思いますけど、こんな建物にたくさんお金かけるのならば、市で正職員ばかり雇ってほしいです。建物は、一旦建ててしまったらどうしようもないのもっと慎重にやってほしいです。

⇒事業の責任者はもちろん市のトップである市長でございます。

⇒1点目のPFIといった件について私の方から説明させていただきます。今回、教育環境整備計画を短期間で校舎の整備というものをやっていく、という計画になっております。学校をこのまま維持するとしても、建替え・補修に係る費用が今後かかってきます。そういった負担をどのように軽減するか、市民負担をどのように軽減していくかということを検討している中で、一つの手法として、PFI手法を検討しているところです。市民負担を軽減するということは、皆さんも望まれていると思いますが、市職員としてそれ以上に責任をもって考えなければならぬと認識しており、今まさに検討しているところです。校舎の老朽化とか、市役所の公共施設もそうですけれども、特に学校については老朽化により、時代にあっていないような施設になっており、もう放置するわけにはいかないような状況になっています。それらをいかに早く解決できるかということも踏まえ、今PFIといったような手法も検討しているところです。

⇒私から先ほど、畷小には説明が無いというようなお話もございましたので、今までに至りました経緯を、23ページを見ながらご説明させていただきたいと思っております。23ページに26年8月までの状況が一番左側に書いておりますが、この右の方の改めて24年度の教訓をして、スタートさせたのが、25年の3月にこちらに書いております市民会議という会議を設置いたしました。この設置の主旨は、24年の統廃合の計画を行った際に、住民の意見を、やはり、もっとよく聞くようにというようなことを審議会の答申からも、議会の方からも決議という形でお伺いいたしました。そんなことから、それぞれ個々に市民の方々全員によるお話をお聞きするということはできませんので、それぞれの子どもに関係するような団体の代表者の方によって、実際、構成している市民会議なのですが、中学校区からは公募市民として二人ずつ応募いただきまして、会議を7回、

都合 7 回開催していきました。その中では、今回の基本となる 4 つの柱、ご案内させていただいたのですけれども、その考えが、この中でも一定理解をいただきまして、現在に至っている訳でございます。下の方に関係団体というようなキーワードがございますけれども、各学校の会長さん、母親代表者さんとが、参加されておられます、PTA協議会等にも、その都度その都度この関係、考え方についてはご案内をさせていただいております。地域においては、いわゆる市子連と言われる子供会、育成会、そういった団体組織にも、ご案内をさせていただきましたし、地区の色々な代表者さんにもお話を伺いしてきた所です。実は昨日も夜の 8 時近くから 9 時過ぎまで、市の PTA 協議会の会長さん、また、母親代表者さんと、この件について、意見交換、説明を行い意見交換してきた所です。そういった形で、完全とは言い切れない部分もありますけれども、我々は意見交換をする場として、なわて出前講座というようなものも開設いたしまして、先日ですけれども、東小さんと、南小さんと、PTA の皆さん方との話し合いもさせていただいたというようなことです。今後も、そういった出前講座というのは、ずっと開設しておりますので、お申し出がありましたら、私どもの方がお伺いいたしまして、膝を付け合せてお話をさせていただくような場は設定してまいりたいなと思っております。

○中野本町の地区に住んでいるものですが、前回、10 月の意見交換会の時に、現 6 年生の子から一斉に西中へ移動するという事をお聞きして、慌ててそちらの方に行かせていただいて意見を言わせてもらいました。今回の資料を見ると、1 年ずらしていますが意味が分かりません。1 年ずらしたからと言って、現 5 年生・4 年生の母親の気持ちは、変わりません。中学で、今中野本町から曙小に行っている子供たちは、1 年生から 6 年生まで合わせて 100 人ぐらいしかいません。各学年でいったら本当に少ない人数です。あと、中野本町に住むということで、曙小、曙中に行けると思って住んでいる方はたくさんいらっしゃいます。育成会に関わっていることから意見交換する前に、全世帯のお母さんにメールをさせていただきましたが、西中・岡部小に行くことにはほとんどが反対意見です。そのことから、今後、育成会で動かさせていただこうと思っておりますので育成会と話し合いの場をもっていただけますでしょうか。

⇒先ほどお話の中に、1 年ずらしたということで、29 年が 30 年にしたということについて理由が必要だと思っておりますので、ご説明させていただきます。まず、29 年 4 月では、やはり保護者、子どもさんが統合について十分に、転籍について準備不足である、期間が不足しているということを、まちづくり意見交換会でいただきました。そのことを考えますと、1 年長く取るということは非常に重要であると思っております。このことで、全て解消するとは考えておりません。対象者が小学 6 年生から小学 5 年生に変わっただけであると、承知しております。ただ、スムーズに転籍を進めるためには、2 年では不足しているのではないかとということで、今回 3 年という期間を設けるために 1 年遅らせま

した。育成会との対話でございますが、こちらについても、先ほどのPTA協議会の皆さんと同様、市子連でご説明をさせていただいたということです。今、中野本町の育成会からお申し出がございましたので、先ほどからご説明しております、なわて出前講座をお申込みいただきますと、日程を調整して、ご指定の会場にお伺いをさせていただき、お話をお聞かせいただきたいと思いますと思っております。

◎中野新町地区に住んでいます小学校 5 年生の母親です。何度かこの説明会、意見交換会には参加させていただいております、今回は 3 回目の参加です。前回、前々回参加させていただいたときにも、意見を述べさせていただきまして、その際に私が意見で述べたことについては、検討していただいているということで、ありがとうございます。ただ、意見を述べさせていただいた際に、まずは 1 点目、通学路の距離が長いということで中野新町地区から歩くと 40 分かかりますということでお話させていただきました。その際に検討していただいた結果というのが、一部地域では鉄道等の利用を認めます。中野新町地区については、四條畷西中学校への指定校変更を認めますということでした。今回記載がございますが、鉄道等の利用を認めますということは、やはり費用がかかるということになります。その費用というのは世帯の方で負担になると思うのですが、なぜ、中野新町地区だけが西中学校への指定校変更を認められているのですか。もちろん、各駅から遠いというのもあるかと思いますが、楠公なども駅から近いからといって、鉄道を使つての方法もしくは、徒歩、時間をかけての方法で畷中に行くしかない。また、なぜ中野新町以外は指定校選択を出来ないのかということと、私は娘が今回 5 年生ということで、ちょうど中学 3 年生になる時に学校変更になる時期になります。この中では、中学 3 年生進級する生徒にあたっては、不安軽減のために事前に綿密な交流や連携を行い、スムーズな転籍を目指します。という記載がございますが、具体的なことということが何も書かれておりませんので、やはりこういった書き方だけでは、受験等控えておりますので、かなり不安な面というのがあります。やはり、中学 3 年生というのは子ども達の中でも、高校受験という一番大きな初めての人生の岐路になるかと思えます。他、大阪市内の方で、同じように中学 3 年生の時に学校廃校のために学校が変わったという人の意見を聞いたときには、移動した中学 3 年生というのは凄いイジメにあったそうです。その中には、何人か不登校になってしまった子もいたということで、高校受験がかなり大変だったということを知りました。そういった面も含めまして、もう少しわかりやすく、具体的な内容でどのようにフォローしていただけるか、というのも検討していただきたいと思います。あと最後に、前回の通学路では、夜、暗くなって日が落ちると真っ暗になるということで、お話をさせていただいたのですが、その際に、LED ライトに随時変更していくということで、前回の時には、新しいところに設置するのではなく、現在ある電灯を全てLEDに変えるのに五ヵ年計画を立てているということで、ご説明がありました。今回は、必要な場所への増設等も検討されていらっしゃるという

ことですけれども、増設を含めてであれば、何年かかるのですか。中学は4年後になりますが、その4年後で全て終わるのかということもお伺いしたいと思います。

⇒私の方から最初の3点のお話しさせていただきます。まず、電車通学に係る費用についてですが、現在、国の補助制度がありまして、これはキロ数で上限があります。中学校の場合は6キロを超える場合に国の補助制度がありまして、それを、いま国の方が指針を改訂しているところですので、この辺の基準も変わってくると思います。その辺の動向を見据えながら、国の補助制度を活用して参りたいと思います。併せて、出来る限り、保護者の負担の軽減ということで、市の方も措置を考えてまいりたいと思っております。二つ目ですが、中野新町以外の方、要は全市的に学校選択を、というお話になるかと思っております。やはり、今回2小1中の中学校区の確立ということを経済委員会の方では目指しております。2つの小学校から1つの中学校へ行って、小中9年間を見据えた教育を、しっかり進めていくと、そこを確立してまいりたいということがあり、2小1中の中学校校区という原則があつて、そのなかでも、通学の距離や、目の前に西中があるのに遠い畷中へということについての配慮という部分で、中野新町の方については教育的な配慮で指定校の変更をしていく特別な処置を設けるといふ、そういう考え方に至っております。3つ目ですが、中3の時の転籍についての具体的なプランなのですが、この時期にこのようにやります。というような具体的なことは今、答えとしては持ち合わせていません。というのはこれから3年間かけて、中学校3年生の転籍をスムーズに進めたいと思っております。来年度については、大きな枠組みを、まず、きっちり両校、あるいは小学校中学校間でしっかり考えてまいりたいと思っております。その上で残りの2年間については、具体的な子供たちが目の前にいるイメージをしながら、どういった配慮が必要なのかということについて、丁寧に考えていきたいと思っております。イメージとしては、例えば、月に何回あるいは週に何回、一緒に授業を受ける、一緒に行事をする。そのようなことをやっていく。それから、例えばクラブなんかでも一緒に行動していく。そのようなことを考えられるのかなと思います。併せて、転籍となったあとは、クラス編成をどうしていくのかということ、あるいは、教員の配置をどのようにしていくのか。この辺についても十分配慮していく必要があるかなと考えております。

⇒それではLED、通学路の安全対策についてお答えを申し上げます。通常の現在についております防犯灯のLED化につきましては、当初、五ヵ年計画ということで、順次、取り換えていくということでございます。これに関しましても、地元等の要望もございまして、本年度は補正予算で一千万の要求をいたしまして、少しでも急ごうとしております。五ヵ年計画で進めておりますが、もっと早くということでございますので、極力急いで現在、鋭意進めているところでございます。あと、通学路につきましては安全対策ということで、市はもちろんのこと、警察、また通学路の府道については大阪府、国道

163については、国等も含めまして、今現在、検討会の立ち上げを進めようとしているところでございます。本年度中には通学路の安全対策の委員会のようなものを立ち上げて、各道路管理者や、警察、教育委員会も含めまして、通学路の安全対策を総合的に見ていこうと、現在進めているところでございます。その中では、追加の防犯灯につきましても、検討の中に含めていきたいと考え、進めているところでございます。

◎東小の区域に住む者です。今回東小の件に関して、こういう会合があることも知りませんでした。父親が地域開発に関しての時に行って、聞いてきた時に、小学校の編成みたいなものがあるのかと聞いたら、そのような話はあんまりみたいな感じで言われました。その時にはそういう話がなかったけれども、何故か、四條畷が無くなるような気がするのと、このままのこういう感じでいくと、どこかの市に身を投げるような、そういう感じはすると言っていたのが凄く心に残っていました。やはり、50年先の四條畷のこと、どうなっているのか分からないって、本当に私もそう思いました。一応計画は計画で色々な流れもあって、私もずっとここに住んでいるのですけれども、今住んでいる家も元々は道路が出来る、立ち退くことを承知の上で住んでいただけますかということで、住んでいます。結局その話もなくなった。だから本当にその、計画っていうのは、どのように進んでいくかは、絶対わからないと思います。色々な世間の話もあります。南海地震だとか都構想とか色々言っていますし、みんな選挙で、色々な意見を聞いて、色々な人の意見でやりましょうみたいな感じになっているので、今回こうやって集まっている人数がとても少ないことに驚いています。年末ですし、クリスマス前で皆さん家庭もあって、私もやっぱり学校のことも大切です、人が少なくて、意見が通らなかつたらどうしようと思い、不安もあって1回目も2回目も来させてもらっています。その中でもやはり通学路の面など色々な問題もあり、私の住んでいるところでは中学校も小学校も無くなり、本当に小中一貫みたいなことを考えているのなら、この4区画であれば置いといてくれてもいいのではないかと。北出小もあるのに、あそこもしっかりと活用出来ているかという、そうでもないのではないかと個人的には思うので、そこに市役所をもっていった方がいいのではないかと思います。いろんな意見があると思いますので、ただ230人の意見を聞きました。育成会の意見を聞きました。公募で来られた2人ずつに聞きました。少人数の意見ではなくて、もっともっと、色々な人の意見を聞く機会を、この審議会にいくまでに、もう1回2回とみんなの声を取り入れていただきたいと思えます。そういう会を持っていただけるかどうかをお聞きしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

⇒先ほども説明させてもらいましたように、この間、様々な過程をふみ、少人数のところもありますし、団体さんによっては役員さん全部に集まってもらって話をさせてもらいました。このような手順の中で、前回も8回にわたってアンケートを取らせていただき

まして、その内容等も見させてもらっております。以前の24年度の東小・南小の統廃合の際にも、多くの方から、ご意見・アンケートをいただきました。やはり、今回のことと共通する部分も数多くありますので、そういうこともふまえて、今、皆さんのご意見をいただきながら、少しずつ固めているところです。並行しまして、膝を付け合せて、話ができるような場も設定していけたらと思います。審議会につきましてはこれまでいただいた意見等をテーブルにのせていくために現在我々も準備していますので、そこで改めて我々の考え方だけではなく、多方面・多角度から検討を加えていただき、方向性を見出していきたいと思っております。

◎すみません、中野新町のものです。先ほどから「検討します、検討します」という言葉を何回も言われていますが、聞くたびに「決定します。」という感じに聞こえます。先ほど子供の移動のときに、イメージして子供をイメージしてという言い方をしていますが、うちの子供はゲームじゃありません。イメージ・想像では子供は動きません。そこをどう考えているのですか。この意見に対して誰が賛成の声を上げているのですか。反対の声と同時に賛成の声をどのような方が言われているのですか。教育の分野に関わっている幼稚園・保育所・小学校・中学校の教育関係の方は誰も来られていません。市長も来てないですが、教育に関係ある先生方の意見をなにひとつ直接聞いていません。上だけで話を聞いています。だから、このようにしましたでは市民は納得しません。そこをどう思われているのですか。ちょっと子供たちをバカにしすぎです。子供はゲームじゃありません。

⇒そのようにとらえられたということは、私の言葉が足らなかったということで申し訳ないです。私がお話したかったのは、目の前の子供たちによって我々が、机上で考えることがうまくはまらないということがありますので、目の前の子どもたちにより良い配慮ということを考えていきたいとそういうことで子供たちをイメージしてという言葉を使いましたのでその辺はご理解いただけますでしょうか。

◎現時点では2年で足りなかった分を1年伸ばしたのに、その1年でまた計画を立てて、その2年の後の残りでしっかりと統合できるのですか。

⇒他市の例では、やはり2,3年をかけて統合の準備を丁寧に進めているという例がありますので、まずは来年度1年しっかりと枠組みを作りまして、残りの2年で子供たちによりよいプランを教職員の先生らとともに考えていきたいと思っております。子供たちのことをよく知っておられるのは現場で教育されている先生方であるので、先生方とともに、統合の準備委員会のようなものを立ち上げまして、子供たちのよりよいスムーズな転籍を目指したいと、そのように考えております。

